

めん羊・山羊の改良増殖をめぐる情勢

令和元年6月

農林水産省

生産局畜産部畜産振興課

目次

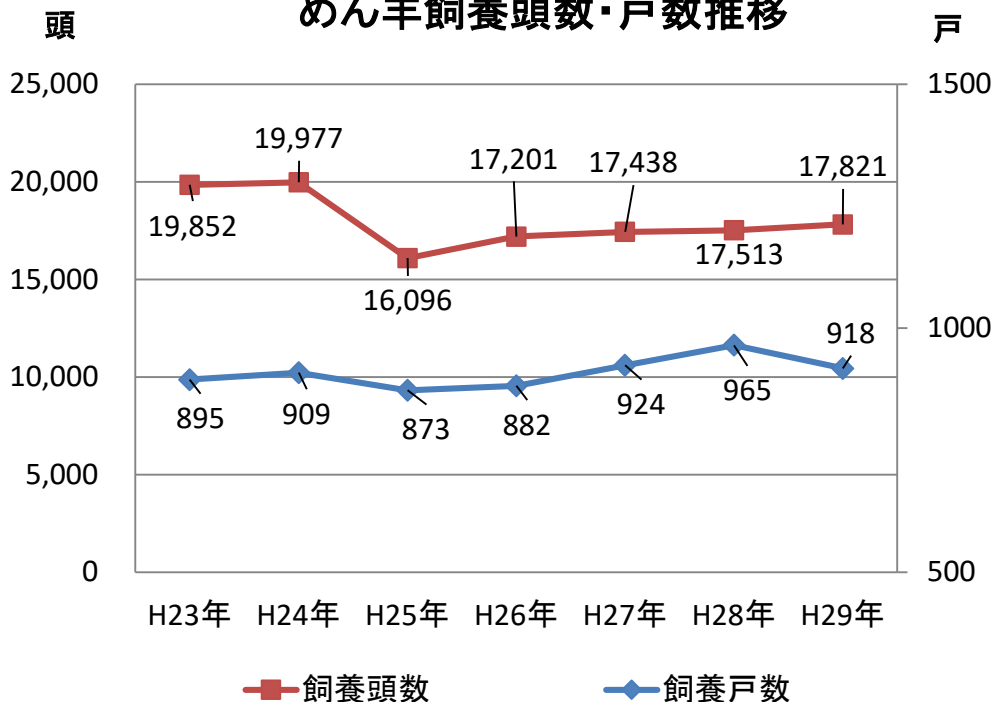
1. めん羊	1
(1) 飼養頭数・戸数の推移	
(2) 地域別飼養頭数	
(3) めん羊の畜産物利用(羊肉)について	
(4) <めん羊> 今後の種畜供給体制について	
(5) めん羊の能力評価について	
2. 山羊	7
(1) 飼養頭数・戸数の推移	
(2) 地域別飼養頭数	
(3) 山羊の畜産物利用(山羊肉、山羊乳)について	
(4) <山羊> 種畜供給体制について	
(5) 山羊の能力評価について	
3. めん山羊の人工授精について	15
4. 登録頭数の推移	17
5. 東北・北関東におけるめん山羊の放牧自粛等について	18
5. めん羊の改良増殖目標のうち数値目標の検証	19
6. 優良事例	21

1.めん羊

(1) 飼養頭数・戸数の推移

- めん羊の飼養頭数・飼養戸数は、近年横這いで推移。平成29年現在、飼養頭数は約18,000頭、飼養戸数は約920戸飼養されている。
- 我が国で飼養されている主な品種は、肉用種であるサフォーク種が多くを占めている。

めん羊飼養頭数・戸数推移



資料：農林水産省消費・安全局動物衛生課
「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」

年次	飼養頭数 (頭)	飼養戸数 (戸)	1戸あたり 頭数 (頭/戸)
平成23年	19,852	895	22.2
平成24年	19,977	909	22.0
平成25年	16,096	873	18.4
平成26年	17,201	882	19.5
平成27年	17,438	924	18.9
平成28年	17,513	965	18.1
平成29年	17,821	918	19.4

<サフォーク種>

原産地：英国のサフォーク州が原産。
在来種のノーフォーク・ホーン
にサウスダウンを交配して作
られた大型の肉用種。

体重：雄100～135kg、雌70～100kg

羊毛：白色の半光沢、毛長：8.0～11.0cm

毛量：2.5～4.0kg

特徴：早熟早肥で産肉性に富み、良質のラム肉を生産。世界各国
で肉生産用の交配種として広く飼養されている。頭部と四肢
には羊毛がなく、黒色短毛で覆われている。



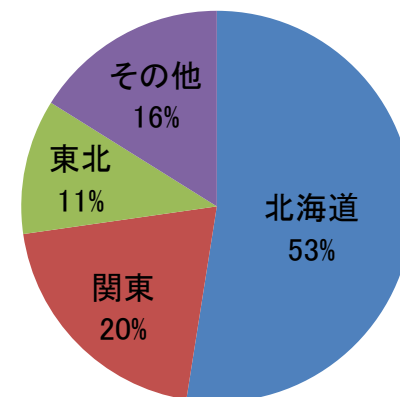
(2) 地域別飼養頭数

- めん羊の約半数は北海道で飼養されており、次いで長野県、千葉県、栃木県の順。
- 地域別に見ると、北海道、東北、関東で8割を超える頭数が飼養されている。

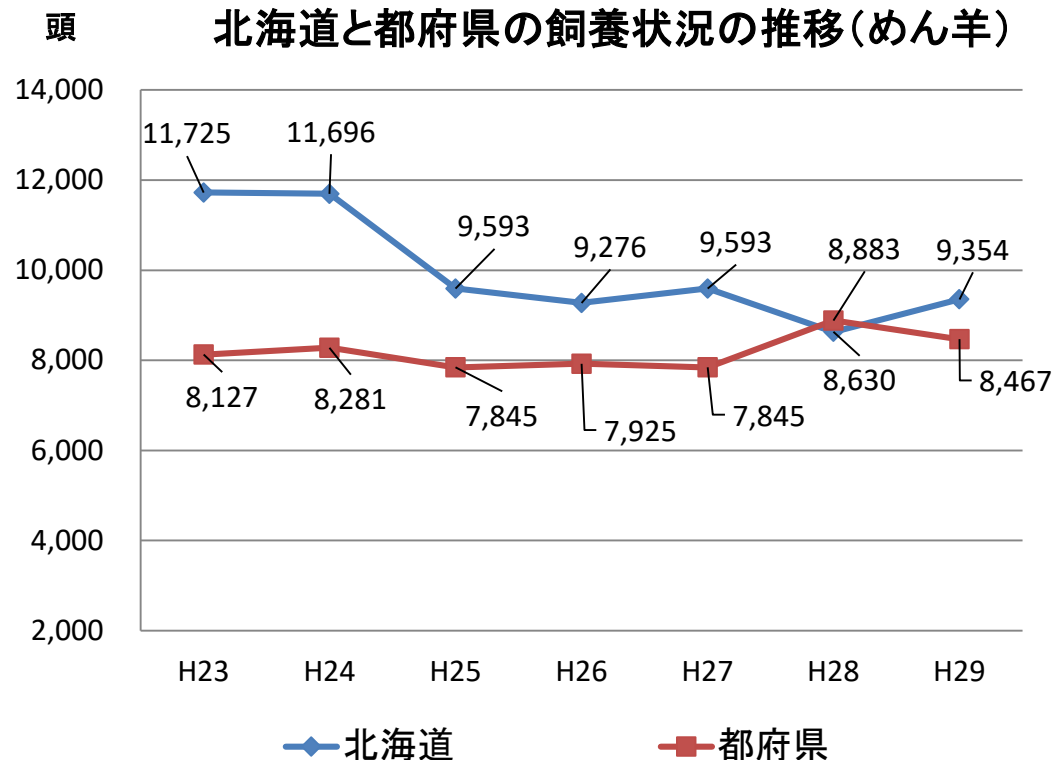
めん羊地域別飼養頭数(H29)

	地域	飼養頭数 (頭)	割合
1	北海道	9,354	52%
2	長野	1,065	6%
3	千葉	659	4%
4	栃木	613	3%
5	山形	573	3%
6	岩手	564	3%
7	群馬	447	3%
8	静岡	382	2%
9	兵庫	333	2%
10	神奈川	329	2%
総飼養頭数		17,821	

めん羊の地域別飼養頭数割合(H29)



北海道と都府県の飼養状況の推移(めん羊)

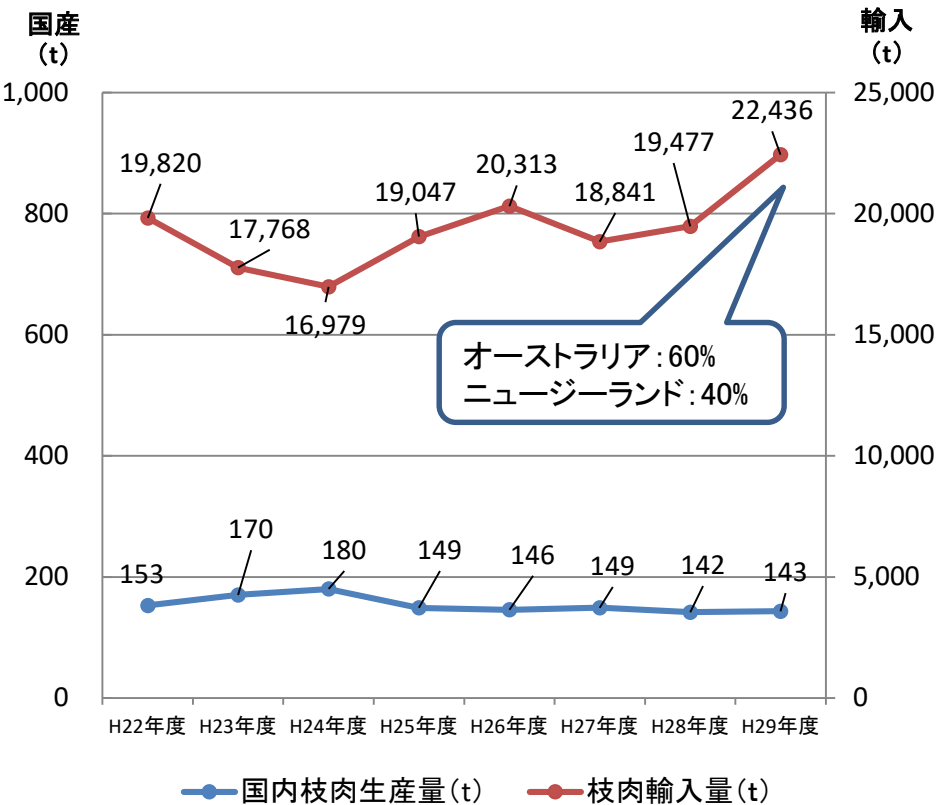


資料：農林水産省消費・安全局動物衛生課
「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」

(3) めん羊の畜産物利用（羊肉）について

- 羊肉の国内生産量は、近年ほぼ横ばいで推移しており、年間約140tが生産されている。
- 輸入量は、2万t程度で推移しており、輸入先はオーストラリアとニュージーランドとなっている。

羊肉の国内生産量と輸入量の推移(枝肉ベース)



	国内と畜頭数(頭)	国内生産量(t) (枝肉ベース) a	輸入量(t) (枝肉ベース) b	総量(t) a+b	国内産割合
平成22年度	5,447	153	19,820	19,973	0.8%
平成23年度	6,078	170	17,768	17,938	1.0%
平成24年度	6,418	180	16,979	17,159	1.0%
平成25年度	5,309	149	19,047	19,196	0.8%
平成26年度	5,193	146	20,313	20,459	0.7%
平成27年度	5,316	149	18,841	18,990	0.8%
平成28年度	5,055	142	19,477	19,619	0.7%
平成29年度	5,113	143	22,436	22,579	0.6%

国産羊肉は、主に生産者から首都圏の飲食店等に直販、インターネットを活用して販売されている。

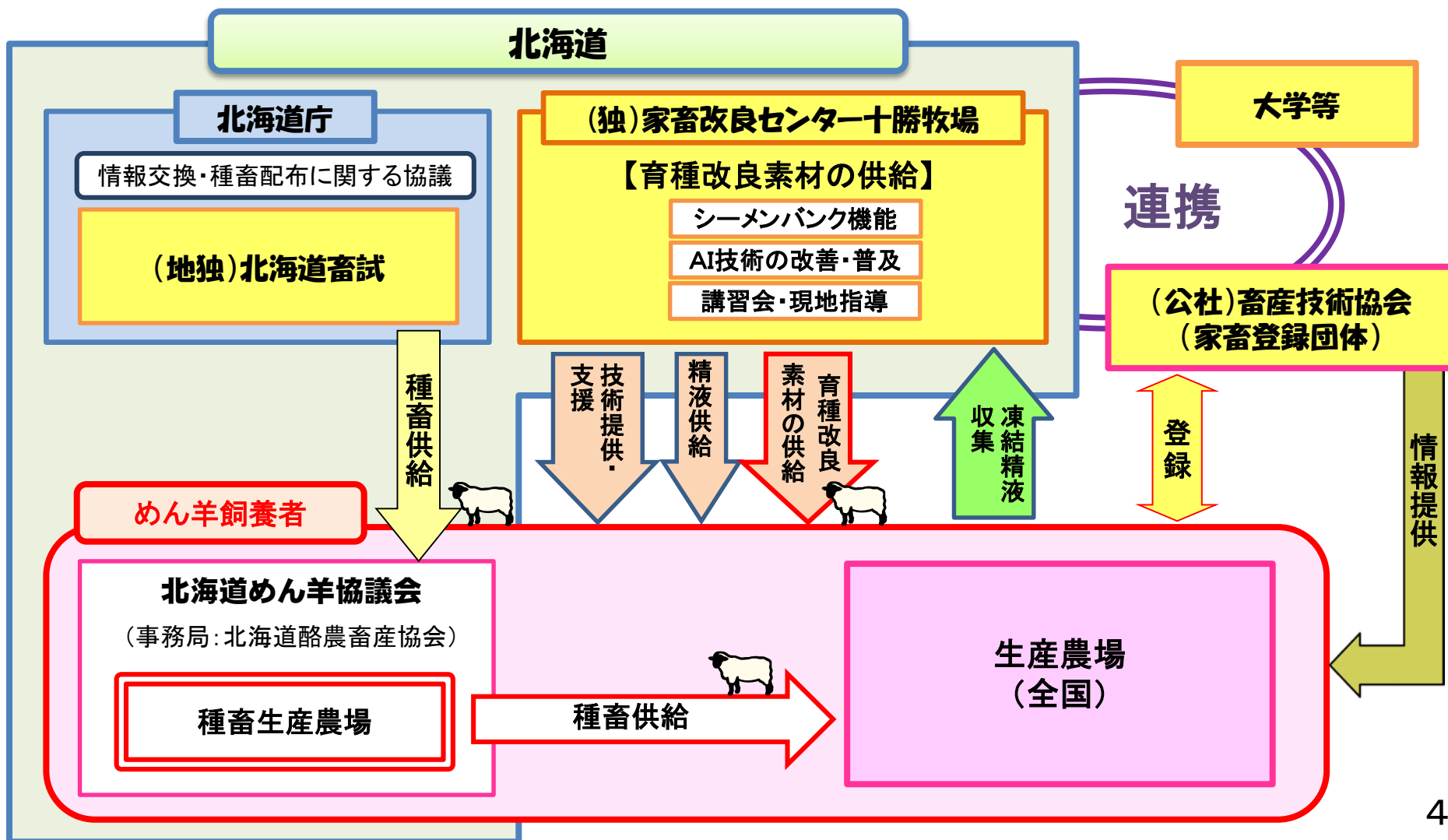
注1:「と畜頭数」は、「食肉検査等情報還元調査」

注2:「国内枝肉生産量」は、過去5ヵ年(平成17年～21年)の1頭あたり枝肉重量の5中3の平均値を乗じたもの

注3:「枝肉輸入量」は、財務省「日本貿易統計」

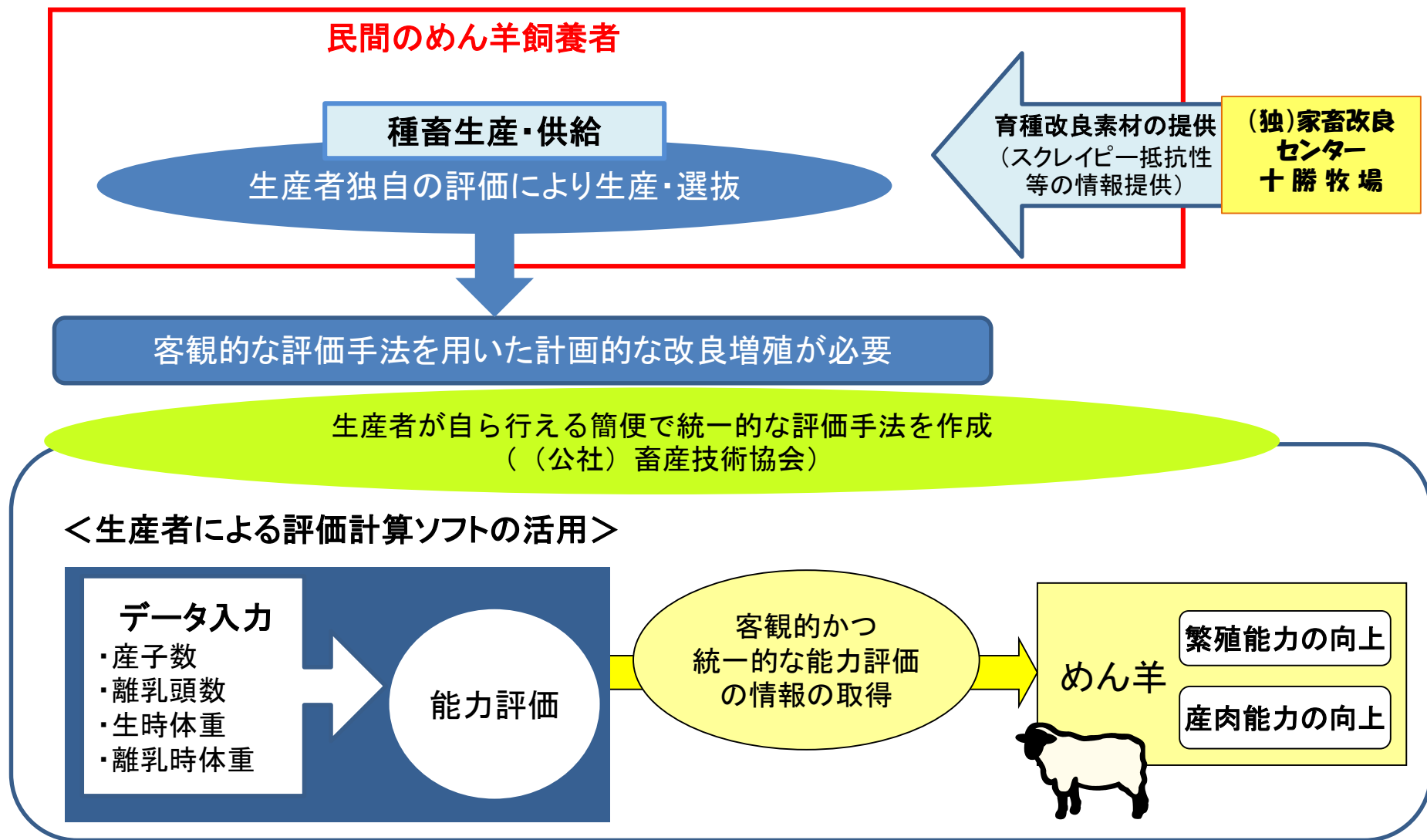
(4) <めん羊>種畜供給体制について

- めん羊の種畜は、北海道を中心として道庁や民間団体等の連携の下、種畜生産農場で生産され、全国の主要な生産農場へ供給されている。
- (独)家畜改良センター(十勝牧場)では、民間等における種畜生産供給体制を支援するため、精液や育種改良素材の供給のほか、技術提供・支援などの支援を実施している。



(5) めん羊の能力評価について

- (公社)畜産技術協会では、我が国で飼養されるめん羊の家畜としての能力を生産者が自ら簡便に評価できる計算ソフトを作成。客観的な指標による母系の選抜や、発育状況の把握などに活用可能。



(参考) めん羊能力計算ソフトについて

- 畜産技術協会において、各生産者が客観的、統一的な改良増殖を行えるよう支援を行っている。
- めん羊の能力評価を目的とした、群内の子羊発育状況等を客観的に評価するソフトを作成し、平成27年度から配布されている。

＜めん羊能力計算ソフト＞

めん羊の生時体重、離乳時体重から、子羊の発育状況把握や群内の種畜選抜に利用可能な補正体重を算出することを目的としたソフト。母羊の年齢、分娩型・哺育型、性別の違いが離乳時体重へ与える影響を反映したものとなっている。

クリックして計算結果を出力シートに表示

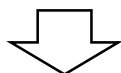
A. 90日齢時体重(補正なし); (生時体重 + (実測体重 - 出生体重) ÷ 測定日齢 × 90)

B. 90日齢時体重(母羊年齢の補正、分娩・哺育型の補正)

C. 90日齢時体重(母羊年齢の補正、分娩・哺育型の補正、性別の補正)

NO	子羊の情報						母羊の情報					種雄羊の情報		子羊	母羊	90日齢補正体重			備考
	名号	性別	出生日	出生体重(kg)	体重測定日	実測体重(kg)	名号	年齢(才)	分娩頭数(頭)	離乳頭数(頭)	PrP遺伝子型	名号	PrP遺伝子型	測定日齢(日)	分娩・哺育型	A(kg)	B(kg)	C(kg)	
平均	—	—	—	4.88	—	31.28	—	4.29	1.68	1.47	—	—	—	118.18	—	24.96	28.28	29.65	

父・母・子羊の情報を入力(体重、月齢、産歴等)



母羊能力評価(出力シート)

順位	母羊名号	交配した種雄羊	分娩頭数	離乳頭数	離乳子羊の90日齢補正体重C(kg)				備考
	平均	—	1.56	1.30	29.62	—	—	30.43	総分娩頭数:210
1	青164	♂14	2	1	43.60	43.60	43.60	43.60	
2	白65	♂2	2	1	41.76	41.76	41.76	41.76	
3	青17	♂3	2	1	39.45	39.45	39.45	39.45	
4	G22	♂5	2	2	38.99	42.76	34.97	77.73	
5	R28	♂2	1	1	38.76	38.76	38.76	38.76	
6	オレ73	♂2	3	2	37.60	38.42	36.93	75.35	
7	白47	♂1	1	1	37.17	37.17	37.17	37.17	
8	青133	♂5	1	1	36.97	36.97	36.97	36.97	
9	白77	♂1	1	1	35.84	35.84	35.84	35.84	
10	R35	♂1	1	1	35.48	35.48	35.48	35.48	

90日齢補正体重を推定し、子羊の発育成績評価、羊群全体の能力評価、複数年の成績比較も可能

【参考】母羊の年齢、分娩・哺育型等による離乳時体重の差と補数係数

要因	補正係数
母羊の年齢	
2才	1.08
3才	1.01
4才	1.00
5才	1.00
6才	1.03
7才	1.08
分娩・哺育型	
単子・一子	1.00
単子・二子	1.10
双子・一子	1.08
双子・二子	1.19
三子・一子	1.09
三子・二子	1.24
三子・三子	1.37

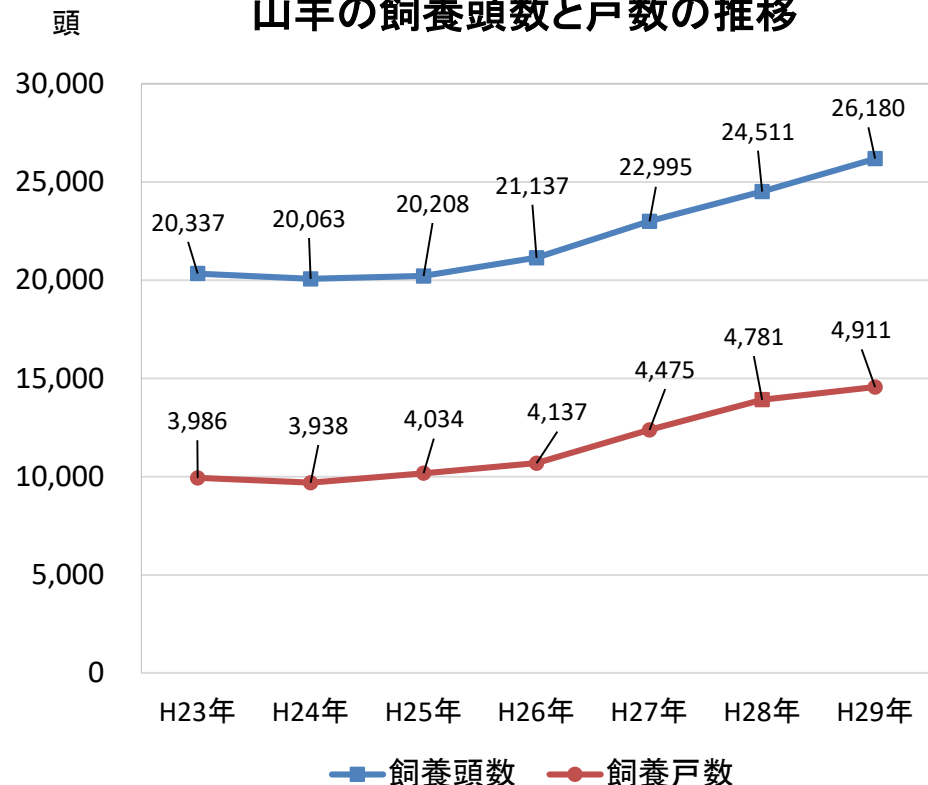
資料: (公社)畜産技術協会

2.山羊

(1) 飼養頭数・戸数の推移

- 山羊の飼養頭数・飼養戸数は、近年わずかに増加しており、平成29年現在で、飼養頭数は約26,000頭、飼養戸数は約4,900戸。
- 我が国で主に飼養されている主な品種は、乳用では泌乳能力に優れた日本ザーネン種、肉用ではボア種などが飼養されている。

山羊の飼養頭数と戸数の推移



戸

8,000

6,000

4,000

2,000

年次	飼養頭数 (頭)	飼養戸数 (戸)	1戸あたり 頭数 (頭/戸)
平成23年	20,337	3,986	5.1
平成24年	20,063	3,938	5.1
平成25年	20,208	4,034	5.0
平成26年	21,137	4,137	5.1
平成27年	22,995	4,475	5.1
平成28年	24,511	4,781	5.1
平成29年	26,180	4,911	5.3

<ザーネン種>

原産地：スイス西部ベルン県

体高：75～80cm

体重：雄70～90kg、雌50～60kg

泌乳：期間は270～350日で、年間乳量は500～1,000kg

特徴：被毛は白色、耳が立ち、無角が多いが、有角の角はサーベル型。雌雄とも毛髯をもち、内髯はもつものもたないものがある。日本ザーネン種は、このザーネン種を改良したもので、わが国の乳用山羊はこの品種で占められている。

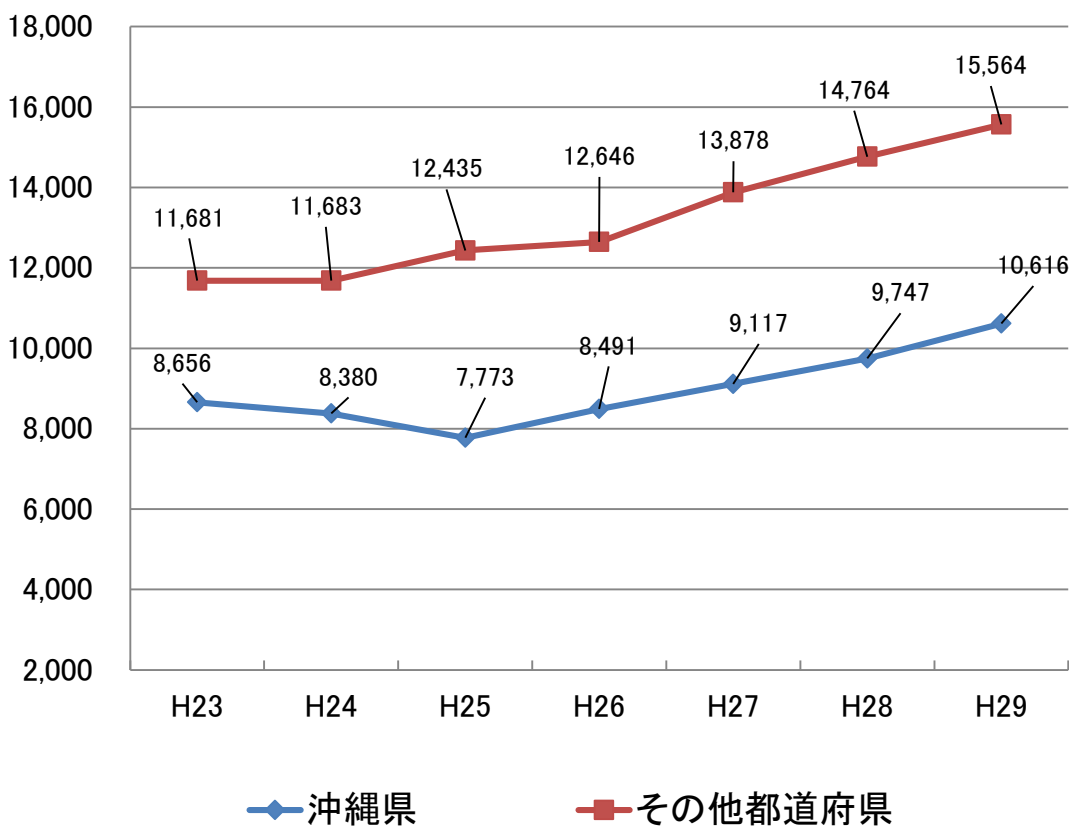


※農林水産省消費・安全局動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」、沖縄県「家畜・家さん等の飼養状況調査結果について」を元に、畜産振興課で作成

(2) 地域別飼養頭数

- 飼養頭数は沖縄県で最も多く、次いで北海道、鹿児島県、長野県の順で多く飼養されている。
- 地域別に見ると、九州・沖縄県で全体の約半数を占めている。
- 用途別では、九州・沖縄県では主に肉用、その他の地域では乳用が主とされている。

頭 沖縄県とその他都道府県の飼養状況の推移(山羊)

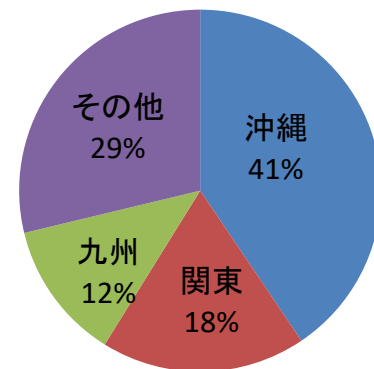


※農林水産省消費・安全局動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等の公表について」、
沖縄県「家畜・家きん等の飼養状況調査結果について」を元に、畜産振興課で作成

山羊の地域別飼養頭数(H29)

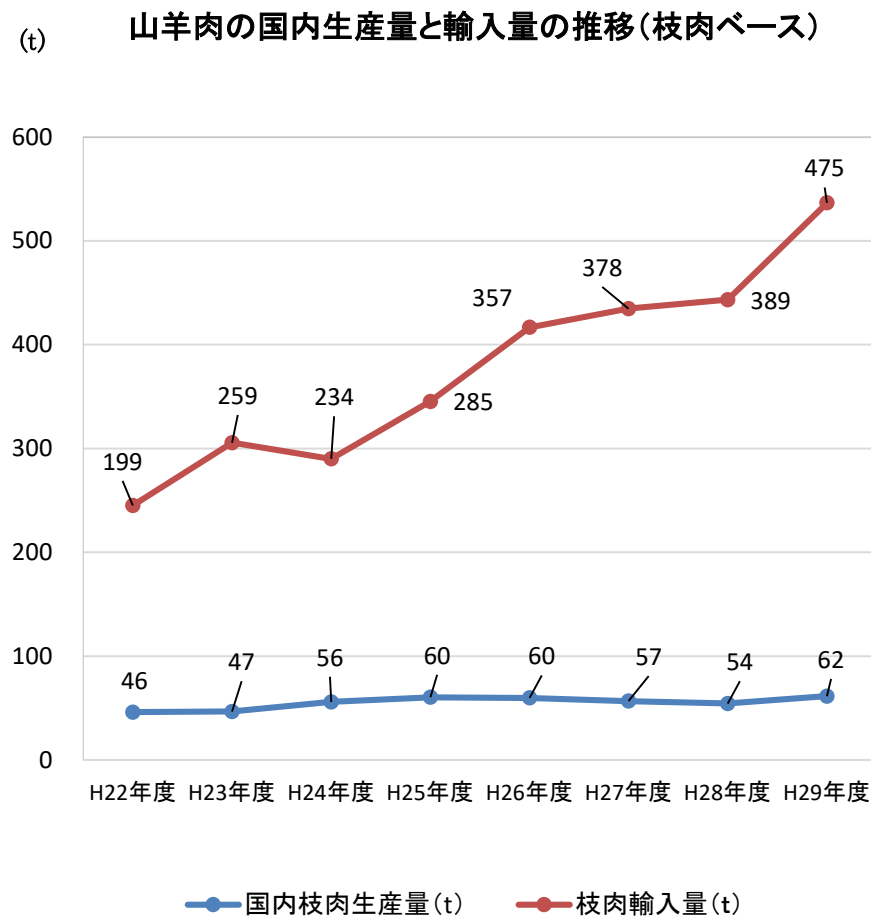
	地域	飼養頭数 (頭)	割合
1	沖 縄	10,616	41%
2	北海道	1,182	5%
3	鹿児島	981	4%
4	長 野	977	4%
5	熊 本	851	3%
6	茨 城	694	3%
7	群 馬	639	2%
8	岡 山	606	2%
9	千 葉	593	2%
10	愛 知	585	2%
総飼養頭数		26,180	

山羊の地域別飼養頭数割合(H29)



(3) 山羊の畜産物利用（山羊肉）について

- 山羊における国内枝肉生産量は、約60t/年で、近年ほぼ横ばいで推移している。沖縄料理での肉利用が多くを占めている。
- 輸入量は、山羊肉需要の増加や外国人のハラルフード需要等を背景に、近年増加傾向で推移しており、輸入先は100%オーストラリアとなっている。



	国内と畜頭数(頭)	国内生産量(t) (枝肉ベース) a	輸入量(t) (枝肉ベース) b	総量(t) a+b	国内産割合
平成22年度	2,417	46	199	245	19%
平成23年度	2,445	47	259	306	15%
平成24年度	2,933	56	234	290	19%
平成25年度	3,164	60	285	345	17%
平成26年度	3,131	60	357	417	14%
平成27年度	2,975	57	378	435	13%
平成28年度	2,852	54	389	443	12%
平成29年度	3,225	62	475	537	11%

注1:「と畜頭数」は、「食肉検査等情報還元調査」

注2:「国内枝肉生産量」は、過去5カ年(平成17年～21年)の1頭あたり枝肉重量の5中3の平均値を乗じたもの

注3:「枝肉輸入量」は、財務省「日本貿易統計」

山羊肉を使った畜産物の例



<山羊汁>

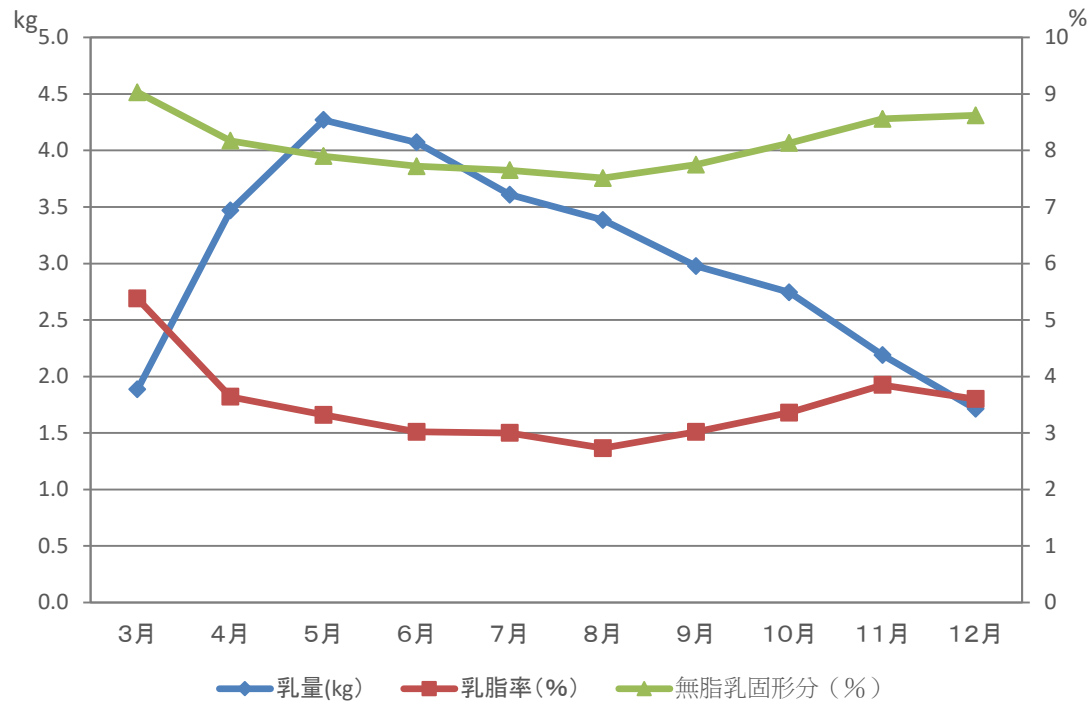


<山羊刺し>

(3) 山羊の畜産物利用（山羊乳）について

- 山羊乳は、牛乳に含まれる乳糖アレルギー成分がない特性から、飲用としても注目されており、チーズなどの加工品への利用もされている。
- 山羊乳は、季節や環境等の影響により、乳量や乳成分等の変動が大きいことを踏まえ、周年的に利用が可能となるよう、平成27年に殺菌山羊乳の成分規格が改訂されている。

泌乳期における山羊乳の乳量・乳成分の変動



資料：(独)家畜改良センター長野支場(H30)

殺菌山羊乳の成分規格について

	改正前	改正後 (H27~)
無脂乳固形分	8.0%以上	7.5%以上
乳脂肪分	3.6%以上	2.5%以上

山羊乳を使った畜産物の例



<クリームチーズ>



<ゴーダチーズ>



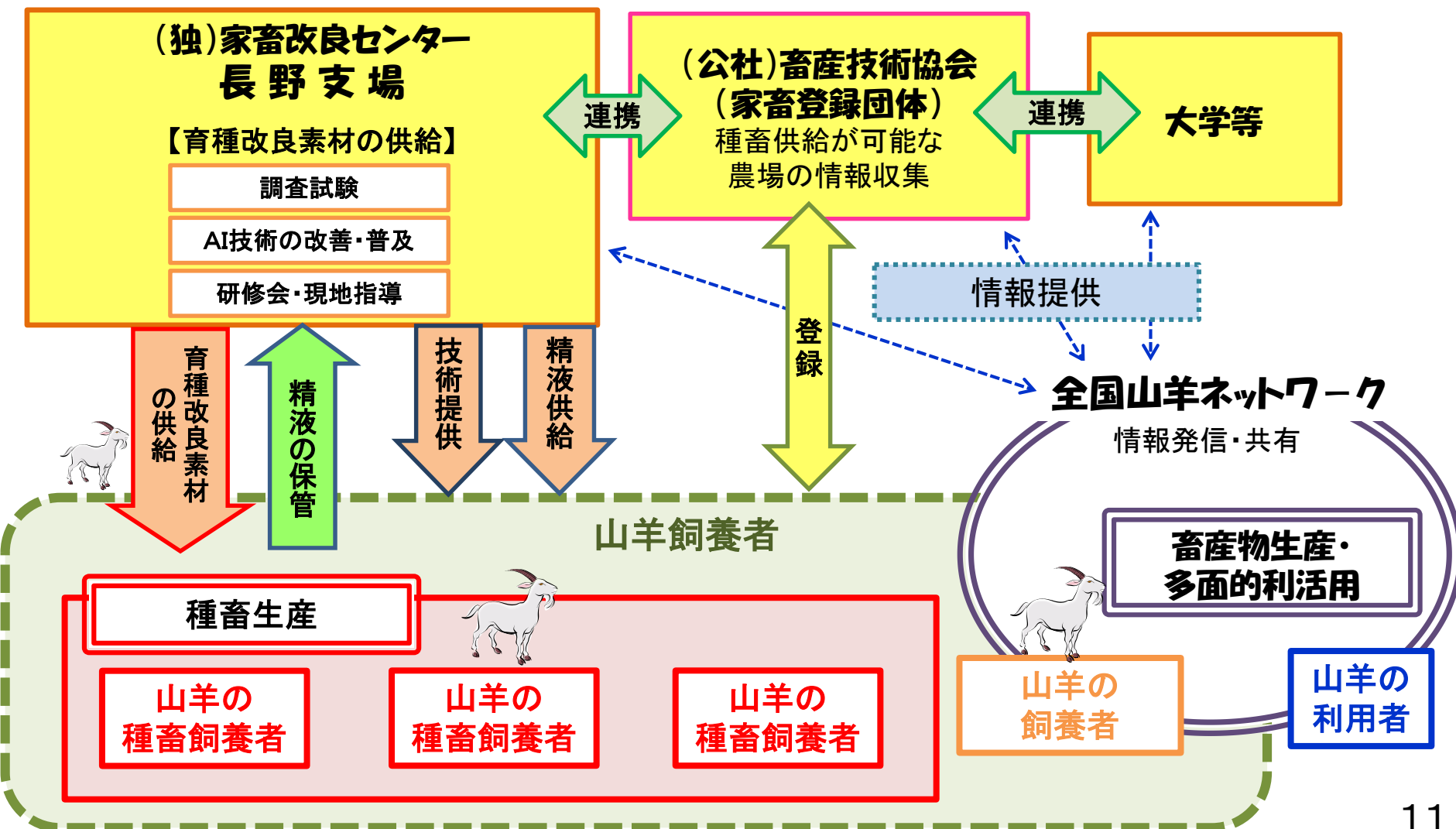
<飲用乳>



<飲むヨーグルト>

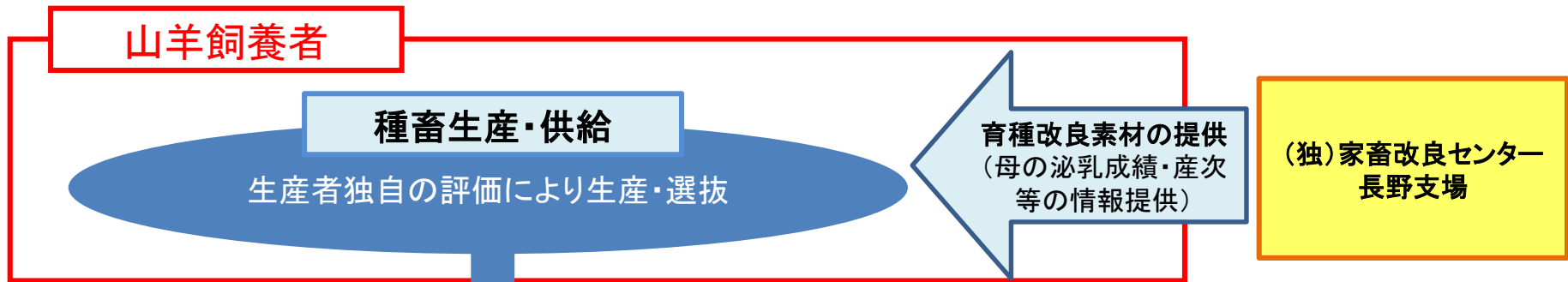
(4) <山羊>種畜供給体制について

- 山羊の種畜供給は、研究機関や登録団体、生産者等の関係者が連携し、関連情報を共有しながら種畜の円滑な供給に努めている。
- (独)家畜改良センター(長野支場)では、民間等における種畜生産供給体制を支援するため、精液や育種改良素材の提供、また技術提供等の支援を行っている。



(5) 山羊の能力評価について

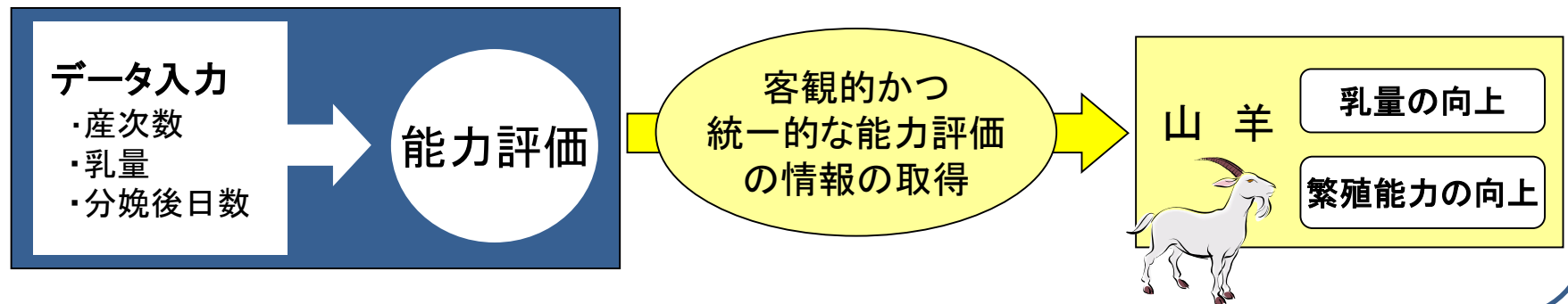
- （公社）畜産技術協会では、我が国で飼養される山羊の家畜としての能力を生産者が自ら簡便に評価できる計算ソフトを作成。客観的な指標による母系の選抜や、発育状況の把握などに活用可能。



客観的な評価手法を用いた計画的な改良増殖が必要

生産者が自ら行える簡便で統一的な評価手法
(（公社）畜産技術協会)

<山羊泌乳量計算ソフトの活用>



(参考)山羊泌乳量計算ソフトについて①

- 畜産技術協会において、各生産者が客観的、統一的な改良増殖を行えるよう支援している。
- 山羊の能力評価のための、1日当たり乳量等から年間乳量の予測が可能な「山羊泌乳量計算ソフト」を作成し、平成27年度から配布している。

＜山羊泌乳量計算ソフト＞

山羊の1乳期の泌乳データから、250日換算平均乳量および泌乳曲線を推定することを目的としたソフト。産次の違いによる乳量への影響も反映したものとなっている。

山羊泌乳量計算ソフト

Copyright 2015 公益社団法人 畜産技術協会 Japan Livestock Technology Association, All rights reserved. (無断再配布や改変を禁止します)

名号		
血統番号		
血統		
(上段:父、下段:母)		
生年月日	2012/6/18	
分娩日	2013/6/19	
産子数	2	頭
産次	0	産(0:不明、1:初産、2:2産、3:3産、4:4産以降を半角数字で記入してください)

血統、月齢、
産歴等を入力

泌乳量データの入力に、「データ取得年月日」「分娩後日数」のどちらを使用しますか？

☒ データ取得年月日

☐ 分娩後日数

1乳期での泌乳量データ(取得年月日は2014/4/1のように半角スラッシュで区切り、乳量ともに、半角数字で左端から横につめて記入してください)(最

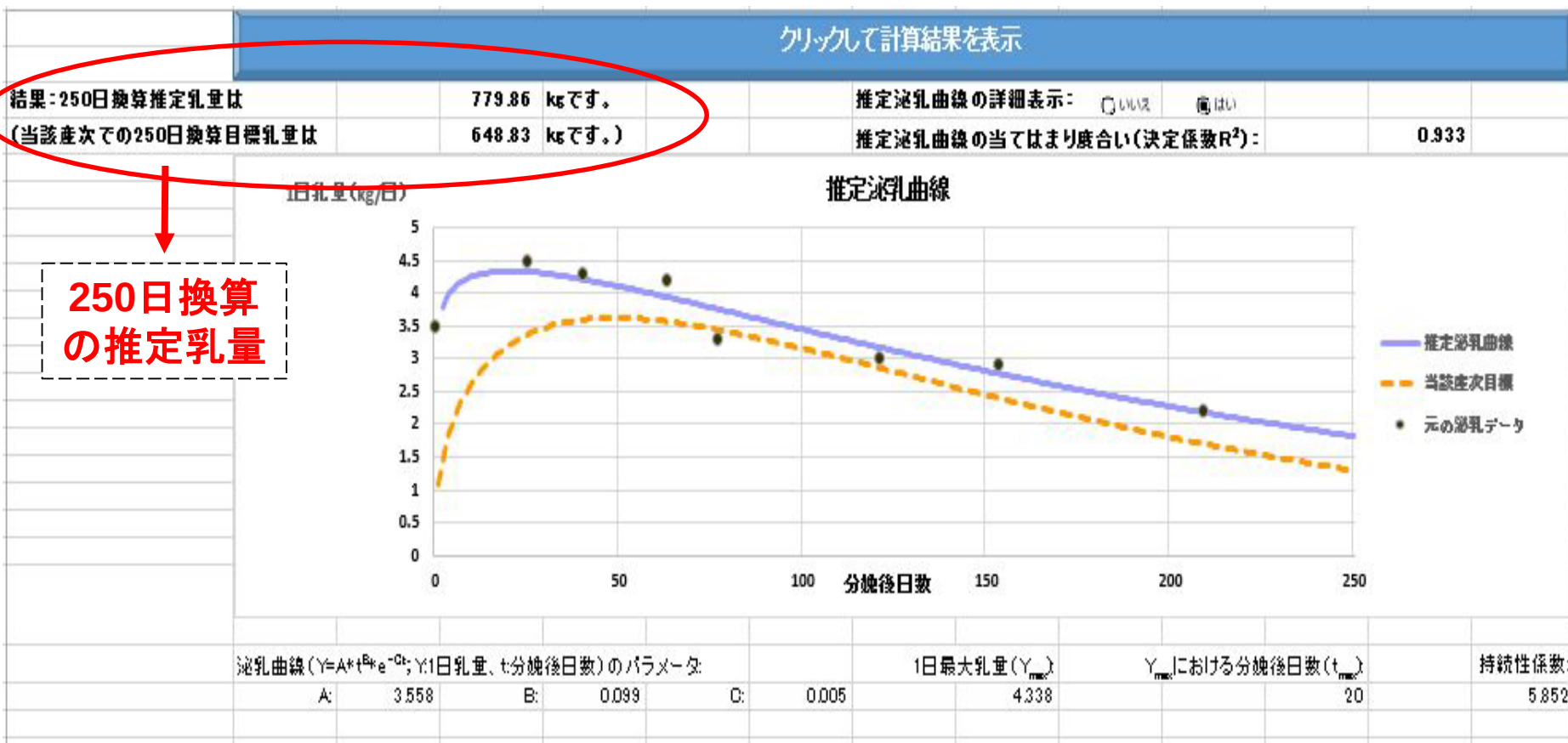
データ数	1	2	3	4	5	6	7	8
データ取得年月日	2013/06/20	2013/07/15	2013/07/30	2013/08/22	2013/09/05	2013/10/19	2013/11/20	2014/01/15
分娩後日数	1	26	41	64	78	122	154	210
1日乳量(kg/日)	3.50	4.50	4.30	4.20	3.30	3.00	2.90	2.20
ピーク補正	☒ しない	☐ する	(通常は「しない」に設定し、泌乳量データが単純増加を示す場合のみに「する」に設定してく					

乳量を入力

(参考)山羊泌乳量計算ソフトについて②

<山羊泌乳量計算ソフト>

山羊の1乳期の泌乳データから、250日換算平均乳量および泌乳曲線を推定することを目的としたソフト。産次の違いによる乳量への影響も反映したものとなっている。

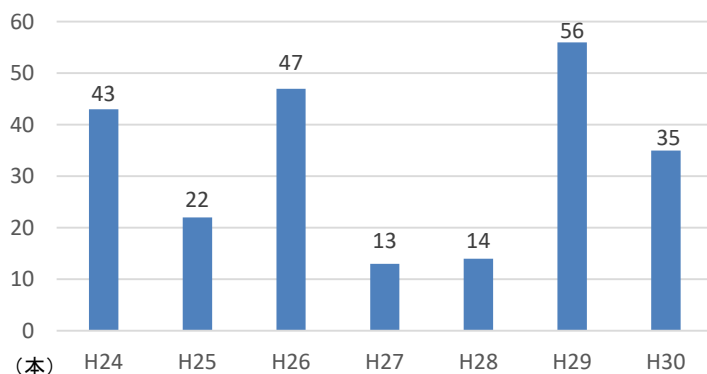


資料: (公社)畜産技術協会

3. めん山羊の人工授精について

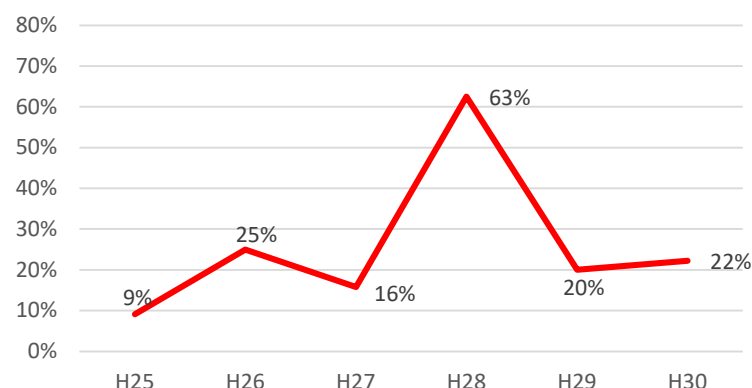
- 人工授精は伝染性疾病的の予防、種畜の高度利用、家畜改良の促進等を目的とした技術である。
- めん山羊では自然交配が一般的で、人工授精器具が高価であることや、人員が必要となることから、人工授精はあまり普及していない。
- (独)家畜改良センターで牛用のシース管を用いた簡易注入による受胎率調査が行われているなど、めん山羊の人工授精では簡易な方法の確立、受胎率の安定的な向上が課題となっている。

めん羊の凍結精液配布本数の推移



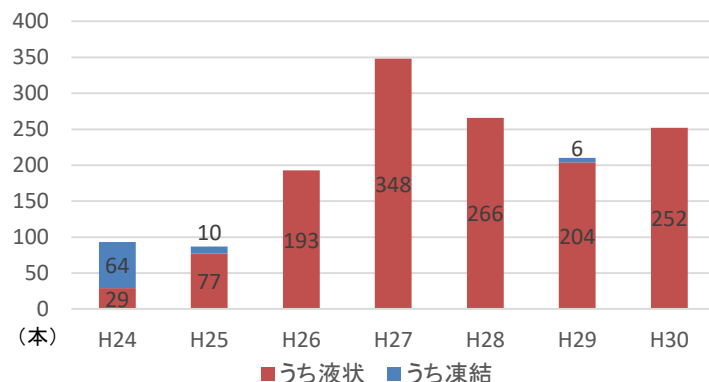
資料: (独)家畜改良センター十勝牧場実績
※液状の配布実績なし

めん羊の受胎率の推移



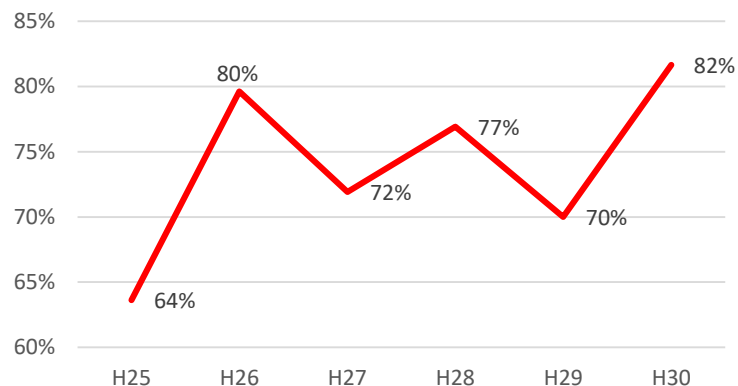
資料: (独)家畜改良センター十勝牧場実績

山羊の精液配布本数の推移



資料: (独)家畜改良センター茨城牧場長野支場実績

山羊の受胎率の推移



資料: (独)家畜改良センター茨城牧場長野支場実績

(参考) めん山羊の人工授精について

- めん山羊における家畜人工授精師の人員確保や技術向上を図るため、(独)家畜改良センターでは講習会等の開催を行っている。

【膣深部人工授精】



めん山羊を立たせたまま実施可能。精液注入器は市販の牛用で代用が可能で、人員も1名で行うことが可能。受胎率については低いことから、受胎率向上に向けた検討が行われている。

【子宮内人工授精(Lapa)】



腹腔内視鏡を使用し、腹壁から直接子宮内に精液を注入。凍結精液による受胎率は50～60%と高いが、器材が高額で高度な技術、人員を要する。

【頸管人工授精】



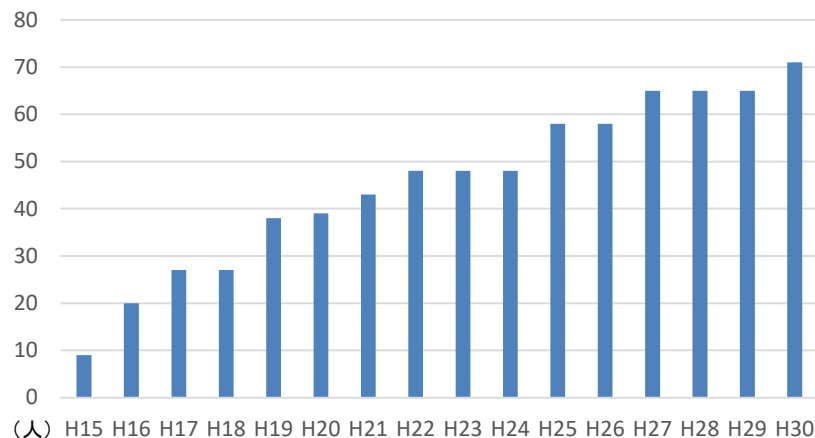
めん山羊を倒立状態で保定して、膣鏡で確認しながら子宮頸管外口部に注入。凍結精液での受胎率は20～30%と低く、人員は2～3名を要する。

【座学等講習会】



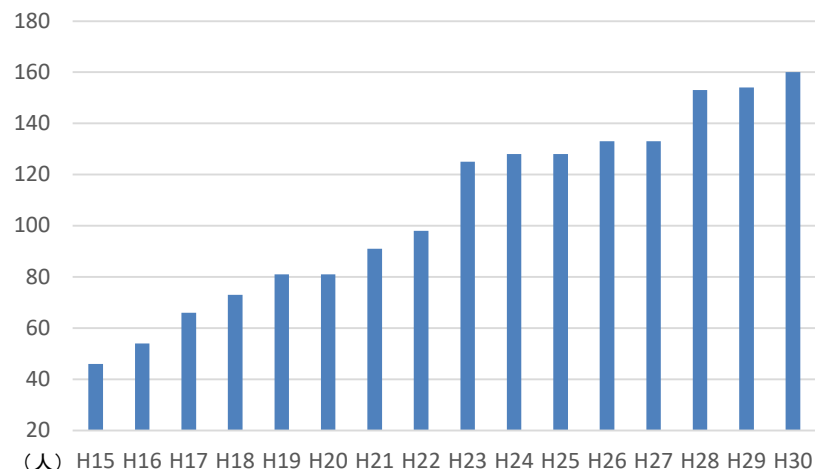
実習に加えて、座学等を通じためん山羊における家畜繁殖学の講習会が行われている。

めん羊の技術講習会 受講者数の推移



資料：(独)家畜改良センター十勝牧場実績(受講者数はのべ累積値)

山羊の技術講習会 受講者数の推移

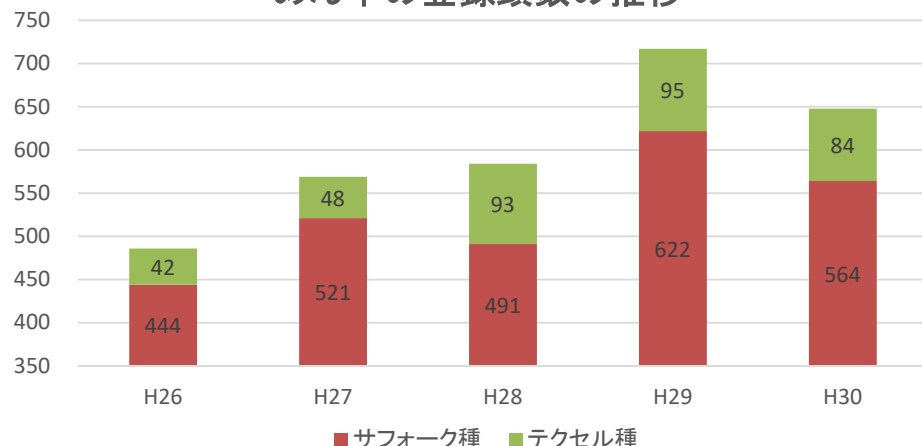


資料：(独)家畜改良センター茨城牧場長野支場実績(受講者数はのべ累積値)
※除角等の講習内容を含む

4. 登録頭数の推移

- 近年、我が国におけるめん山羊はニーズや用途が多様化していることから、品種を限定せずに多品種を登録できるように登録規定を改正。(平成26年)
- 家畜改良の基盤となるめん山羊の成績データを収集し、活用することで改良の促進を図るため、飼養者に対する登録推進を図っている。

めん羊の登録頭数の推移



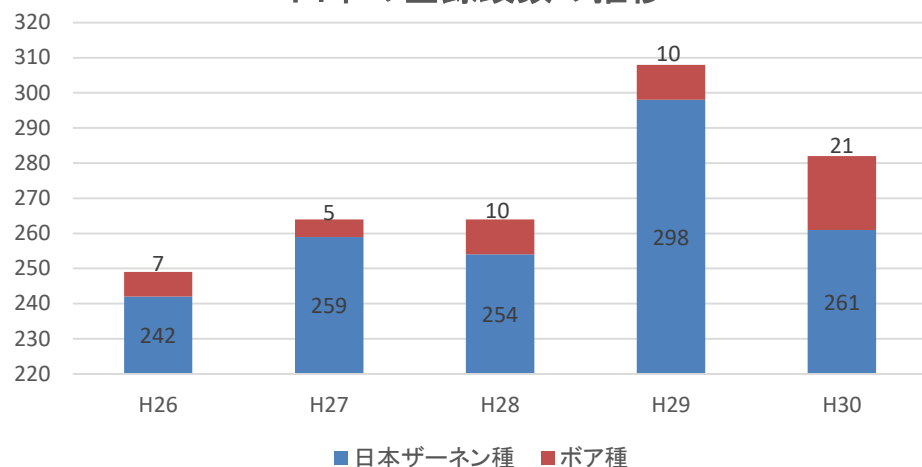
- ・めん羊の登録頭数は、総飼養頭数に対する割合は少ないものの、やや増加傾向で推移している。
- ・品種別でみると、サフォーク種が多くを占めており、一部の地域ではテクセル種の登録が行われている。



テクセル種

- オランダ テクセル島の在来種をもとに作出された品種。
- ラム肉の生産が主体。
- 顔面と四肢以外は、白色の毛で被われており、耳は短く水平に近い。

山羊の登録頭数の推移



- ・山羊の登録頭数は、総飼養頭数に対する割合は少ないものの、やや増加傾向で推移している。
- ・品種別では、日本ザーネン種が多くを占めており、一部ではボア種が登録されている。



ボア種

- 南アフリカ原産の肉用種で、ほとんどが有角で四肢が強健で、耳が長く垂れている。
- 毛色は、白色で頭部と頸部が赤褐色。
- 沖縄県では、日本ザーネン種との交雑により改良が図られている。

5. 東北・北関東におけるめん山羊の放牧自粛等について

- 1 めん山羊は牛と比較して、放射性物質が体内へ移行する割合が大きいこと、放牧時に根に近いところまで採食するため、土に含まれる放射性物質の影響を受け易いことから、飼料中の暫定許容値が定められないため、東北・北関東地域においては、放牧等の自粛を通知。
- 2 ただし、放牧等を行った家畜についても、県等の指導に基づき舎飼等による飼い直しを行った上、と畜場等において放射性物質検査を行う場合は、食肉としての出荷を認めていることから、これら取組の継続により安全性を確保することが必要。

(なお、最終的に食用に供さないめん山羊の移動については、自粛の対象とはなっていない。)

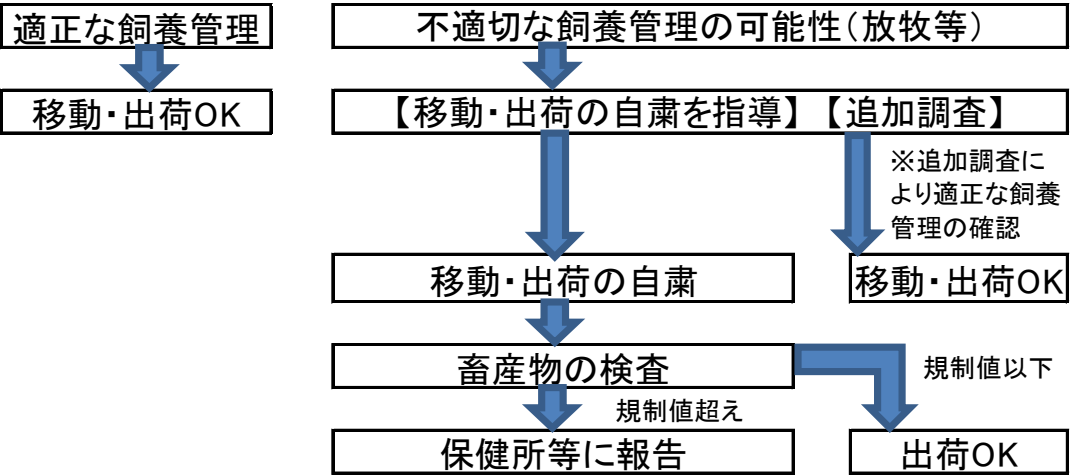


(参考1) 放射性セシウムの飼料から畜産物への移行係数(最大値)

	肉	乳
牛	0.096	0.068
羊	1.3	0.32
山羊	1.9	0.33

※IAEA, Handbook of parameter values for the prediction of radionuclide transfer in terrestrial and freshwater environments. TRS 472, IAEA, Vienna, 2010

(参考2) 調査及び判定後の流れについて



6. めん山羊の改良増殖目標のうち数値目標の検証

(1) 数値目標の変遷

第8次(H17年公表)

<めん羊>

○4ヶ月齢時体重

雄 : 43kg

雌 : 39kg

○9ヶ月齢時体重

雄 : 63kg

雌 : 57kg

※サフォーク種

○1腹当たり離乳頭数

1.7頭

※サフォーク種の4ヶ月齢離乳時

<山羊>

○総乳量

600kg

※泌乳期間250日程度

第9次(H22年公表)

<めん羊>

○4ヶ月齢時体重

雄 : 43kg

雌 : 39kg

※サフォーク種

○1腹当たり離乳頭数

1.5頭

※4ヶ月齢離乳時

<山羊>

○総乳量

600kg

※日本ザーネン種

※泌乳期間250日換算

第10次(H27年公表)

<めん羊>

○90日齢時体重

雄 : 33kg

雌 : 29kg

※サフォーク種

※母羊が5才、単子分娩・一子ほ育型を
基準とした補正值

○1腹当たり離乳頭数

1.5頭

※90日齢離乳時

<山羊>

○総乳量

600kg

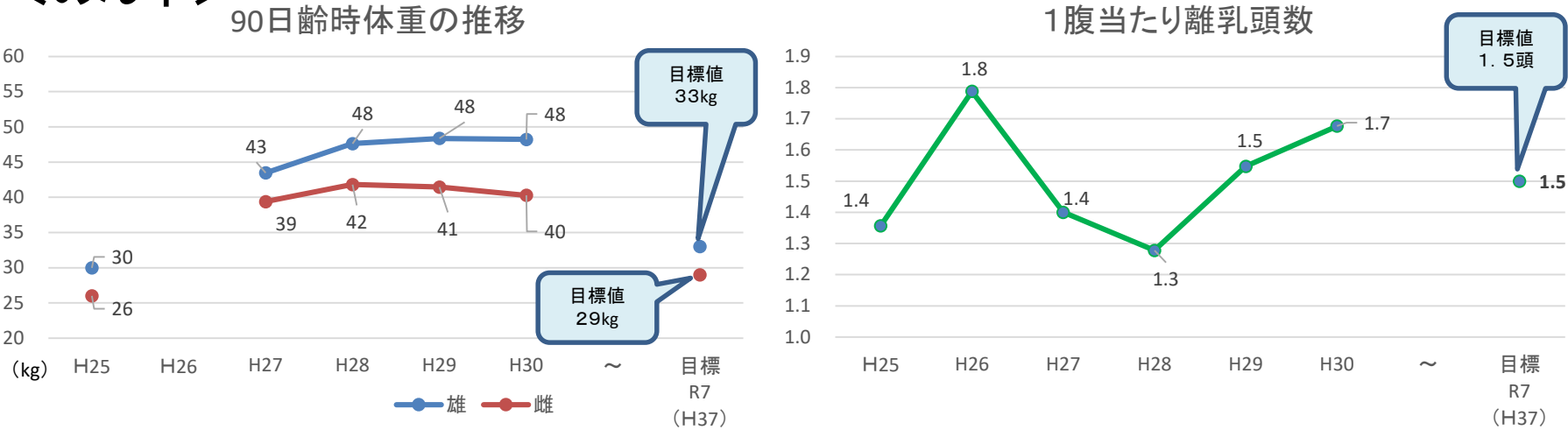
※日本ザーネン種

※泌乳期間250日換算

6. めん山羊の改良増殖目標のうち数値目標の検証

(2) 現行の目標（第10次家畜改良増殖目標）に対する進捗状況

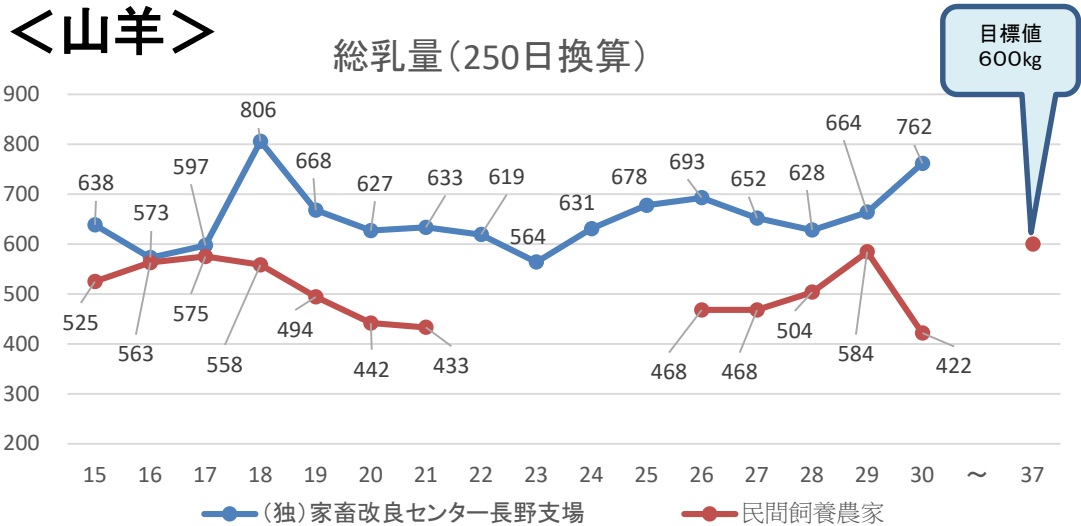
<めん羊>



(注1) サフォーク種のものである
(注2) 90日齢時体重は母羊が「5才」「単子分娩・一子ほ育型」の場合の数値を基準とした補正係数を用いた次の算式により算出される。
$$\text{生時体重} + (\text{測定体重} - \text{生時体重}) \div \text{測定日齢} \times 90 \times (\text{母羊の年齢の補正係数}) \times (\text{分娩・ほ育型の補正係数})$$

(注3) 1腹当たりの離乳頭数は、90日齢離乳頭数のものである。
(注4) 実績値は試験場等調べ

<山羊>



(注1) ザーネン種のものである。
(注2) 総乳量は、産次、分娩後日数、1日当たり乳量を基に、日乳期間を250日換算して算出したものである。
(注3) 実績値は(公社)畜産技術協会調べ(民間飼養者)

優良事例 ①

○ 生産から販売まで行う大規模めん羊経営 (北海道白糠郡白糠町: 茶路めん羊牧場)



◇概要

創業者の武藤浩史氏は、大学時代に携わった羊の世界に魅了され、海外研修やめん山羊牧場での従事経験を積んだのち、昭和62年に「茶路めん羊牧場」を開設。めん羊35頭から始まった当牧場は、現在は総飼養頭数約700頭にまで拡大し、9品種のめん羊を生産する大規模経営を営んでいる。

◇放牧を活用した大規模生産

約16haに及ぶ広大な放牧地を活用し、牧区を分けながら計画的に草地を利用している。化学肥料を使わず堆肥のみを用いた草地の再生を行い、土ー草ー羊のサイクルで有機的な羊の大規模放牧を実現している。

◇飼育管理のポイント

放牧によるストレスの軽減に加え、親羊やラム肉生産のための羊には自家配合飼料を与え、栄養不足とならないよう群管理を徹底し、生産性と肉質の向上に努めている。

◇生産から流通・販売まで

生産されためん羊は、自社で備える処理施設を活用し、直営するレストランでの羊肉料理の提供や、精肉やソーセージなどの加工品、また羊毛を使った衣類やムートン(毛皮)等の形で、通信販売を活用して幅広い販路で販売されている。



優良事例 ②

○ めん山羊とのふれあい活動と療育

(千葉県木更津市:社会福祉法人のゆり会 のぞみ牧場学園)



◇概要

社会福祉法人のゆり会により2003年に開設された「のぞみ牧場学園」は、障害を持った子供たちの療育を行う施設として、作業療法や心理指導のほか、犬や猫をはじめ、めん羊、山羊など多くの動物とふれあうアニマルセラピーなどを取り入れている。動物や自然環境と多くふれあうことで質の高い療育を目指し、心身の健全な発達を目的とした取り組みが行われている。

◇アニマルセラピー

動物の世話を行うことで得られる「責任学習」や、他者と一緒に動物の正しい接し方や思いやりを学ぶ「対人関係学習」や「行動学習」、撫でる、抱くといった刺激から得られる「感覚への働きかけ」などをアニマルセラピーから療育することができ、その中で人に懐きやすく温和な性格のめん羊、山羊が飼育されている。



◇その他イベント等

めん羊の毛刈り実演や、刈られた毛から糸を紡ぎ、セーターを編み上げるまでのタイムを競うウールチャレンジ大会などのイベントを毎年開催し、動物とのふれあいを通じて命のありがたさを実感する体験も行われている。

